

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

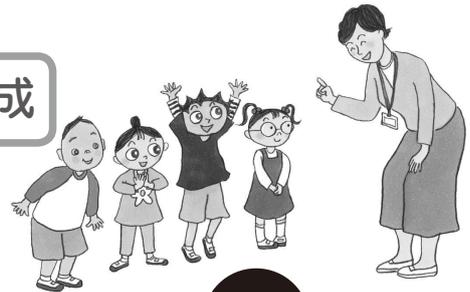
受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-134	小 学 校	生 活	生 活	1・2年生
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
11 学図	生活 105・106	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 上・下		

① 編修の基本方針

私たちは、小学校教育全般に対し、

多様性を前提とした問題解決能力の育成

を、編修理念に据え、育てたい資質・能力を
以下のようにとらえました。



個人

- 多様な他者とコミュニケーションする力
- 少数意見も尊重した合意形成する力

思考力、判断力、
表現力

他者

- 「なぜ」、「わかった」を尊重する力
- 論理的に考える力

生きて働く
知識、技能

社会

- 未解決の問題への関心
- 社会に貢献する意欲

学びに向かう力
人間性

主な資質・能力

これらをもとに、以下の3つの特色のもとに、教科書を構成しました。

特色 ①

自己決定できる
子どもを育てる

- 子どもが中心となって、見通しをもちながら願いを達成していく中で、めざす資質・能力が自然と付いてくる教科書。
- 活動に取り組んでいる自分を多様な方法で表現することで、学びと言語活動が一体化された教科書。

主体的であること

特色 ②

他者との関わりの中
で、変容できる
子どもを育てる

- 対話を通じて他者の考えや立場に気づき、他者を尊重できる子どもを育てる教科書。
- 動植物等の素材とも対話を持ち、願いをもってそれらの存在を認めていくことができる子どもを育てる教科書。

対話的であること

特色 ③

自分の成長を自覚
することのできる
子どもを育てる

- 活動をふり返り、できるようになった自分を自覚することのできる子どもを育てる教科書。
- 自己実現をもとに自分に自信をもち、「またがんばろう」と思うことのできる子どもを育てる教科書。

深い学びであること

特色

1

自己決定できる子どもを育てます。

- ① 子どもが中心となって、見通しをもちながら願いを達成していく中で、めざす資質・能力の基礎が自然と付いてくる教科書。

❖ 子どもの自己決定の時間を大切にしました。

- 大きな花をたくさんさかせたいという願いのもと、自分がまく種を選び、個数も自分で決定します。



- 鉢を置く場所も自分で決定します。「自分で決める」ことで、責任ある行動をとれる人間になれるよう工夫しました。

point 自分の学びを自分で作る

- 見通しをもって解決していく過程を作っていく。
- 自分の願いに対して子ども自身が決める = 「自己決定する」場面を大切にします。

子どもがみな願いを持って、仲間の存在をみとめて、自己決定していきます。



上 p.13-21

- 子ども同士の対話の中で、自分の考えを伝えたり修正したりしていく過程を示しています。



- 上巻の栽培単位では、子ども同士の話し合いや学び合いがより高まるよう、栽培素材はアサガオに絞りました。⇒ 2年生ではこの学びを活かして色々な野菜を育てていきます。

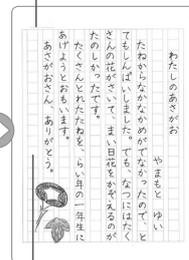
- ② 活動に取り組んでいる自分を多様な方法で表現することで、学びと言語活動が一体化された教科書。

❖ 子どもの発達段階に応じた表現方法を示しました。

- 第一学年当初の記録例は、少ない文字数で表現しています。

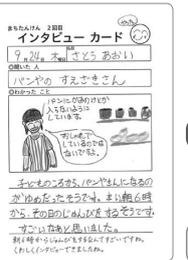
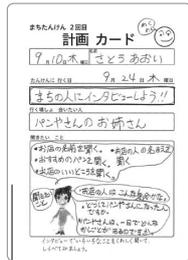


- 上巻秋では、あさがおへの感謝作文を作成する場も設定しました。



point 発達段階を考慮した記録例

- 上巻では、特に発達段階を考慮した記録例とする。
- 子どもが記録する時の目安となるような例とする。
- 多様な表現を示す。



上 わたしのあさがお

- 友達や先生だけでなく、素材との対話も取り入れました。⇒ 特色②へ

下 まちたんけん

- 記録例には、子どもの記録の目安となるよう、先生の朱書きを入れました。

- 下巻では、子どもが見つけた事、あふれる想いを1枚の紙に盛り込む記録例としました。

話し合いや発表については、特色②③で示します。



特色

2

他者との関わりの中で、変容できる子どもを育てます。

① 対話を通じて他者の考えや立場に気付き、他者を尊重できる子どもを育てる教科書。

子ども同士の対話を大切にしました。

●もっとパワーアップさせたいという願いのもと、子ども同士の対話を通じて学び合い、願いを実現させていきます。

●対話の場面であるとともに、活動をさせるために室内をどのようにレイアウトするかのヒントにもなっています。

point 話し合い 学び合い

- 対話を通じて他者の考えや立場に気付く。
- 他者を尊重する。



下 p.80-81

下 p.48-49

●4人の人物を主に、お互いに関わり合いながら、なぐさめたり対立したり、多様な対話活動の様子を示しています。

下 p.69



② 動植物等の素材とも対話を持ち、願いをもってそれらの存在を認めていくことができる子どもを育てる教科書。

素材との対話の場面を設けました。

●「せんせい あのね」だけでなく、素材とも対話をしている記録例を載せました。

●素材との関わりの中で、多様な気付きを引き出すよう工夫しています。

point 素材との対話は 彼の尊重へと 繋がる

- 生き物にふれる単元を上下巻とも設ける。
- 命の教育はもとより、他の立場や生き方を尊重する意味合いをもたせる。



上 わたしのあさがお

上 p.90-91

●生き物との対話は生命尊重だけでなく、子ども側の都合ではうまくいかないことを学ぶ場でもあります。これは他者の尊重へと繋がります。

早めに温かい動物とふれあえるよう、上巻でモルモットを扱っています。



特色

3 自分の成長を自覚することのできる子どもを育てます。

① 活動をふり返り、できるようになった自分を自覚することのできる子どもを育てる教科書。

❖ 単元毎にひとまとまりとした大単元方式で、ふり返り場面を有効に表現しました。

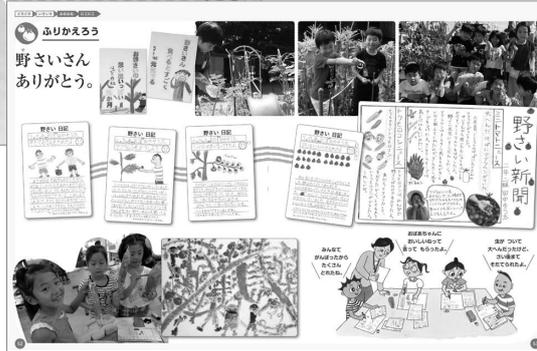
● ふり返り場面では、これまでの記録などをもとにふり返る場面を設けました。



下 p.24-25



● 大単元方式は、活動の推移や子どもの変容が連続したページで確認・ふり返りできる利点があります。



下 p.52-53

point 単元を通して 振り返る

- 振り返りを行うことで、単元を通して「がんばった自分」に気付く。
- 深い学びを実現する。



● 上巻のあさがお栽培の経験をもとに野菜を育て、まとめます。そしてさらにそれらの経験をもとに秋野菜に挑戦します。「前が活かせる」「前とはちがう」等、子どもは学びの見通しをもち、より意欲を高めてとりくみます。

② 自己実現をもとに自分に自信をもち、「またがんばろう」と思うことのできる子どもを育てる教科書。

❖ できるようになった自分を自覚させ、将来に向けた体験として定着させます。



● 下巻最終単元では、自分探検をして行く中で、「自分」「友達」「支えてくれている大人」と、子どもを中心に同心円状にとりまく世界を1枚の紙にまとめあげていきます。そして最後は「ありがとう」という感謝の気持ちを大切にしています。

下 p.96-98

下 p.100-101



- 「ありがとう」を扱っている箇所
上巻：入門期 p.6, p.11, p.36 (あさがおへ), p.81, p.91, p.102, p.104-105
下巻：p.6, p.15 (手話), p.22, p.23, p.52 (野菜へ), p.69, p.93, p.98-99

point ありがとうを 大切に

- 単なるまとめではなく、できるようになった自分を自覚させる。
- 感謝の気持ちを大切に。

❖ 低学年という子どもの発達段階をふまえ、紙面のユニバーサル化を徹底しました。

- 上段に活動内容、下段に子どもの願いをもとにしたタイトルを示しました。
- その時間が単元の中のどこに位置しているか示しました。



point シンプルで見やすい紙面

- 装飾や指示は最低限にする。
- 学習の流れを掲示する。
- 子どもに分かる言葉で端的に示す。
- ポイントを視覚化し、分かりやすい所に示す。

黒板周りや授業のユニバーサル化と同じですね。



上 p.26-27

- 紙面下段では、4人のキャラクターを主に、子どもの願いや対話を引き出すよう工夫しました。
- マークを多用せず、必要に応じて巻末資料への参照を示し、資質能力が自然と身に付くよう工夫しました。

② 教育基本法との対照表

教育基本法第2条	意を用いた点や特色	箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	主体的に知識や教養を身に付けたり、真理を探究できるように、内容ごとの大単元構成にし、ねらいを持って学習できるようにした。 学習展開にあたっては、子どもの情動的な側面を丁寧に描き、豊かな情操と道徳心を養えるよう配慮した。	教科書全体を大単元構成にしたこと。 各単元の展開において配慮した。
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	おもちゃ作りの単元では、よりよく動くおもちゃを自分自身で探究する活動を採用し、創造性や自主性が育つように配慮した。 町探検の単元では、働く人々との交流を通して、職業や生活との関連を学ぶことができるようにした。	下巻 70～87頁 下巻 2～35頁
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	各大単元の展開においては、友だちを始めとして他者との関わりを重視し、自他の敬愛と協力を重んずる態度が身に付くように配慮した。	各単元の展開において配慮した。
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	栽培単元及び飼育単元の活動を特に重視し、継続的に生き物と関わる活動を通して、生命や自然を尊重し、環境の保全に寄与する態度を養えるよう配慮した。	上巻 16～37頁 上巻 82～95頁 下巻 36～55頁 下巻 56～69頁
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	上巻で伝統的な遊びを取り入れたり、下巻で各地の伝統的な行事を紹介したりして、我が国の伝統と文化に愛着を持てるよう配慮した。 上巻・下巻を通してクラスのキャラクターの中に外国の子どもを入れた。 上巻では国際結婚の家族の家族の写真を入れ、下巻ではまちのイラストの中に外国の方が暮らしている様子や、日本でも行われている海外の行事も取り入れた。	上巻 80～81頁 下巻 28～35頁 各単元において配慮した。 上巻 96頁 下巻 28～35頁

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当時間数)

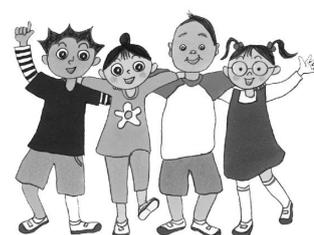
受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
30-134	小 学 校	生 活	生 活	1・2年生
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
11 学図	生活 105・106	みんなとまなぶ しょうがっこう せいかつ 上・下		

1. 編修上特に意を用いた特色

生活科の目標である「自立し生活を豊かにしていくこと」を確実に達成するため、教科書の改善点を、次の3点としました。

- ①子どもが中心となって、見通しをもって自己決定をしながら願いを達成していく中で、めざす資質・能力が自然と付いてくる構成とする。
- ②他者との関わりの中で変容でき、自分の成長を自覚できるような構成とする。
- ③入学当初から小学校の生活へと、円滑に接続できるような構成とする。

また、生活科の学習目標を達成するために、生活科の内容を「探検」「遊び」「飼育」「栽培」「家族・成長」の5つの活動領域に整理し、それぞれを大単元として構成しました。各大単元においては、学習のねらいをはっきりさせながら、継続的な活動を仕組めるようにし、子どもたち自身の成長が、自ら実感できるように配慮しました。



上巻 (基本的に第一学年として設定)



入門期

小学校の生活への円滑な接続として、上巻巻頭に「がっこうだいすき」を設定しました。ここでは、子どもの発達段階、個人差を考慮し、極力文字を少なくするとともに、シンプルな紙面に徹しました。また紙面からの情報を精選するため写真を排し、イラストのみの構成としました。

ここでこれから紙面をリードしていく4人のメインキャラクターと、いつも見守ってくれている先生が登場します。



「探検領域」



がっこう
たんけん

「がっこうたんけん」の前半は入門期として位置づけています。第一段階として、どこからでも自分の教室に帰って来れるよう、校内を空間把握させるとともに、施設の役割等に関する疑問点をなるべく多く気付かせることを中心に置きました。また、第二段階として、そこで働く人に着目させ、働く内容を知り、自分たちの学校生活をより安全で快適に、豊かにしてくれていることに気付かせることによって、気付きの質が高まるように配慮しました。

「栽培領域」



わたしの
あさがお

4人の子どもたちが思い悩みながら、アサガオを育てていく様子を連続的に表現することで、教科書の子どもたちと共に成長していく自分に気付かせる構成としました。ここでは「自分の鉢で」「種を選んで」「鉢の置き場所を決めて」等、自己決定の場面から入るとともに、困った時は友達と知恵を出し合うことで、問題を解決していく場面を設けました。ふり返りでは、これまでの記録からアサガオの成長をふり返るとともに、自己の成長をふり返り、半年間育ててきたアサガオに感謝する場面を設けました。



「遊び領域」



あそびに
いこうよ

「あそびにいこうよ」は、大きく春・夏・秋・冬の四つに分けました。春は入門期の意味合いが強く、友達をつくりながら工夫して遊び、記録のし方や公共施設の使い方を学べるよう構成しました。夏では水・土・石で遊ぶ中で、理科に通じる原体験つくりができるよう構成しました。秋は、まず体全体で秋を感じ、その後見付けたもので遊ぶ活動を通して、考え、工夫する場面を設定しました。冬は雪の多い地域とそうでない地域での活動に分け、風の活動では友達と比較する、工夫するといった場面も設定しています。

また、高齢者との交流を企画し、昔遊びの良さや楽しさを、人と人のふれあいを通して気付かせたいと考え構成しました。



「飼育領域」



いきもの
だいすき

モルモットとの触れ合いと、学校の周りにいる虫たちを中心に展開しました。小動物と触れ合うとき、相手が何を食べるのか、どんな場所を好むのか、どんなことをすれば喜ぶのかなどを探りながら観察する理科学的な見方も育成できるとともに、小動物との現実的な距離と心の距離を徐々に縮めていく様子を表現することで、自分達の思い通りにはならず相手を理解することでその距離が縮まることを気付かせるよう構成しました。

ふり返り場面では、劇なども提示し、多様な表現でまとめるよう配慮しました。



「家族・成長領域」



ありがとうが
いっぱい

家族はどんな仕事をしているのか、自分にはどんなことができるのかを課題に、家族の一員としてより成長した自分に自信をもち、またがんばろうという気持ちを抱かせるよう構成しました。家庭での活動が主となる単元ですが、学校での授業が見えるよう配慮しました。そして最後は「ありがとう」の気持ちを持つことを忘れないよう構成しました。

もうすぐ2年生では、できるようになった自分をふり返るとともに、新1年生を迎える活動で構成しました。



下巻（基本的に第二学年として設定）

「探検領域」



まち
たんけん

まちを探検する活動を大きく二つに分けて設定しました。1回目のまち探検では、自分たちが知っている町のすてきを発表し、学校を中心とした大まかな位置関係わかるように地図を使った活動から導入しました。ここでは、さまざまな活動に適用できる、「計画」→「実行」→「ふり返り」といった学び方が明確にわかるような展開としました。計画の段階では、安全に関することも確認できるように配慮し、「実行」の場面では、商店や施設、民家や農家、公園や川、身近な標識といった様々なものを、五感を総動員して、なるべく多くの発見があるように仕組みました。

2回目のまち探検では、人にクローズアップさせ、その人との交流を企画し、「実行」の場面では、聞きたいことを用意させているが、話しているうちに、また新たな疑問がわいたり、感動して握手を求めたり、自然に気付きの質が高まっていく様子を表現しました。

ふり返り場面では、地図やポスターにまとめながら、また新たな疑問がわき、また聞きに行きたいという知的欲求を期待させるとともに、自分達のまちを愛し大切にしようとするよう構成しました。

ありがとうを
つたえよう。



「栽培領域」



わたしたちの
野菜いばたけ

1年生でのアサガオの栽培を経て、「前が活かせる」「前とは違う」という学びの見通しのもと、野菜を育てる活動を取り上げました。野菜作りではまず育てる野菜の下調べと、畑の土作りから始め、育てる畑にも着目できるようにしました。個々またグループでの栽培活動を進めていくうちに、さまざまな作業や問題への直面とその解決を表現し、困難を乗り越えるたくましい心も育つように配慮しました。

ふり返り場面では、野菜を収穫した喜びとともに、その成功体験やまた一つ成長した自分をふり返って、秋からも自信を持って野菜を育てて行くよう紙面を割きました。



「飼育領域」



生きものと
友だち

ここでは身近に見られるダンゴムシやおたまじゃくしを一定期間飼育する活動を取り上げました。ダンゴムシやおたまじゃくしを飼育する環境を作るときは、捕まえてきた環境を思い出し、そこと同じような環境にしてあげることに気付かせます。これは、地域の自然を愛し、環境への見方・考え方へとつながることをねらうとともに、他の立場や状況を考え、相手を理解することでその距離が縮まることを気付かせることもねらっています。また観察するときは、「くらべる」「たとえる」「数える」といった科学的な見方ができるように配慮しました。

ふり返り場面では、これまでの記録をもとにまとめ、見付けたことを発表する場面も設けました。また最後に「これからも飼育続けるかどうか」を議論する場面も取り上げています。



「遊び領域」



作ってあそぼう
うごくおもちゃ

ここでは、おもちゃ作りを通して、「計画」→「実行」→「ふり返り」→「改善」→「実行」→「ふり返り」といった、子どもたちの気付きが高められる学習のサイクルを明確に示しました。まずいろいろな動かし方に着目させ、動くおもちゃを作ろうと意欲を喚起させました(70～73ページ)。そして、子ども達がそれぞれの動くおもちゃを作っていく中で、「まっすぐ走らせたい」「もっと高く飛ばしたい」「もっと速く走らせたい」等の願い(改善する観点)を明確にしなが、次のステップに進める展開としました(74～81ページ)。

そして、改善されたそれぞれのおもちゃを持ちより、他の子ども(グループ)と遊び、気に入ったおもちゃにはシールをもらう場面を設けました。シールの少なかった子どもによってはショックな場面かもしれませんが(82～83ページ)。しかしそれをもとに遊び方の工夫も含めて「もっと面白くしたい」という気持ちをもたせ、改良し、工夫し、さらには1年生を招待して遊んでもらい、再度シールをもらいます。これによって、おもちゃ作りを、工作や理科的な体験にとどまらせるのではなく、集団の中で自分の学びを作っていく上で、また、今後の人生の中で大切なものとなりうるよう、構成を工夫しました。



「家族
・成長領域」



わたし
たんけん

この単元は、①子ども自身の成長、②子どもをとりまく友達、③それを支えている大人という構造を、現在から過去そして未来という時間軸の中で描けるよう構成しました。それが「わたしたんけん」であり、最終的にまとめあげる1枚の記録です。

まず①として、できるようになった自分を自己評価する場面を設けました(90～91ページ)。そして②では他人の「すてき」を発見させていく中で「すてきカード」を交換します。この段階で既に気付かなかった自分の良い所を知り、新たな学年に向かっての目標ができるように構成にしました(92～93ページ)。

さらに③でこれまでの自分について、家の人や幼稚園・保育園、学校の先生に聞いてインタビューカードを作っていく中で、大人達に支



えられていた自分に気付くよう構成しました。これについては、子ども個々の家庭事情の多様化を配慮した扱いとしました(94～96ページ)。

そしてこれらを1枚にまとめ、発表し、この活動のふり返りを行い、最後にこれからの自分についての作文を作成し、先生からもカードをもらうことによって、この活動は完了です。

この単元は、子ども達が今後もこれからももっとかがやいてくれることを願って、2年間にわたった生活科の集大成としてのまとめ活動として、構成しました。



上下巻 共通



学び方
図かん

この教科書では、低学年という子どもの発達段階をふまえ、紙面のユニバーサル化を徹底しました。

- ①装飾や指示、アイコン等は最低限にする。
- ②学習の流れを掲示する。
- ③子どもに分かる言葉で端的に示す。
- ④ポイントを視覚化し、分かりやすい所に示す。

「学び方図かん」は①に対応するものとし、〇〇のし方については本文で参照表示を設け、巻末で対応するようにしました。ここでは子どもの資質能力の基本となる事項をわかりやすく示しています。また、下段では、「ワンポイント アドバイス」を設けています。

ワン ポイント アドバイス

♥ 聞く 人の 顔を 見ながら 話す、
うなずいて くれるかも しれないよ。

ワン ポイント アドバイス

♥ 聞いた ことは、みじかい ことはて メモして おこう。
あいつの 話に つなげて、さらに しつもんできると
すていよ。

ワン ポイント アドバイス

♥ 話を している人が 言っ ていることを、
わかろうと して 聞こう。
● 「うん うん」
● 「なるほど」
● 「わかる わかる」
● 「それも そうだよね」

② 学習指導要領との対照表

上巻（基本的に第一学年として設定）

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
がっこう だいすき	(1) 学校と生活 (8) 生活や出来事の伝え合い	・がっこう だいすき①～⑧,1 頁 ・がっこう だいすき⑤～⑦,1 頁	6
がっこうたんけん	(1) 学校と生活 (8) 生活や出来事の伝え合い (2) 家庭と生活	・2-15 頁 ・8-9,12-13,14-15 頁 ・14 頁	10
わたしの あさがお。	(7) 動植物の飼育・栽培 (8) 生活や出来事の伝え合い (6) 自然や物を使った遊び (9) 自分の成長	・16-37 頁 ・16-37 頁 ・31,37 頁 ・34-37 頁	20
あそびに いこうよ ・あつくなつたよ ・あきと あそぼう ・ふゆと あそぼう	(5) 季節の変化と生活 (6) 自然や物を使った遊び (3) 地域と生活 (4) 公共物や公共施設の利用 (8) 生活や出来事の伝え合い	・38-81 頁 ・42-43,46-47,52-53,60-69,74-79 頁 ・44-45,80-81 頁 ・44-45 頁 ・45,48-49,54-55,69 頁	28
いきもの だいすき むし だいすき	(7) 動植物の飼育・栽培 (8) 生活や出来事の伝え合い	・82-95 頁 ・90-91 頁	14
ありがとうが いっぱい もうすぐ 2 年生	(2) 家庭と生活 (8) 生活や出来事の伝え合い (9) 自分の成長	・96-113 頁 ・96-113 頁 ・108-109 頁	24
			計 102

下巻（基本的に第二学年として設定）

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当時数
まち たんけん あの人に 会いたいな	(3) 地域と生活 (4) 公共物や公共施設の利用 (5) 季節の変化と生活 (8) 生活や出来事の伝え合い	・2-35 頁 ・12-15,26-27 頁 ・28-35 頁 ・2-5,10-11,16-25 頁	27
わたしたちの 野さいばたけ	(7) 動植物の飼育・栽培 (2) 家庭と生活 (3) 地域と生活 (8) 生活や出来事の伝え合い	・36-55 頁 ・50-51,53 頁 ・38-39,46 頁 ・38-39,48-49,51-52 頁	23
生きものと 友だち	(7) 動植物の飼育・栽培 (8) 生活や出来事の伝え合い	・56-69 頁 ・68-69 頁	14
作って あそぼう うごく おもちゃ	(6) 自然や物を使った遊び (8) 生活や出来事の伝え合い	・70-87 頁 ・86-87 頁	20
わたしたんけん	(9) 自分の成長 (2) 家庭と生活 (3) 地域と生活 (8) 生活や出来事の伝え合い	・88-103 頁 ・90-91,94-99 頁 ・95 頁 ・88-103 頁	21
			計 105